

優秀賞

スマートフォンを使用せずに目的地を目指そう

山本 魁 (大学4年生：東京都)

最短経路を提示するだけが地図アプリの役割だろうか？私は、散策中に起こり得る偶然の出会いや、思いがけない発見との遭遇が移動に楽しさを生じさせると考えた。

近年では、携帯機器の革新的な発達により、スマートフォンを所持していれば容易に目的地までの道のりを検索することができる。スマートフォン保有者の地図アプリの使用率は7割を超えていると言われており、その中で最も利用されているのはGoogleマップである。Googleマップは、効率良く各所を巡れる利点がある一方で、スマートフォンの画面上で自分の移動に合わせて地図上の現在地も移動してしまうため、現在地や周辺情報に気を取られて、無意識のうちに歩きスマホの原因に繋がってしまう。また、地図アプリを使用しながらの歩行は、事故に遭う危険性が高まるだけでなく、スマートフォンに気を取られて、周囲の景色や景観を見落としている可能性が高いと考えられる。しかし、地図アプリを使用せずに、看板の情報や聞き込みだけで目的地まで辿り着くことは難しいと考えられる。

そこで私は、スマートフォンを使用せずにゲーム感覚で目的地まで辿り着ける腕時計型のデバイスを提案する。このデバイスは、腕に装着し目的地の方向を向くと振動し、波動を感じ取ることができる。腕をかざすだけで目的地までのある程度の方向が分かるため、画面確認のために下を向くことがなくなり、歩きスマホの防止に繋がる。デバイスは目的地に近づくほど振動（波動）が強くなり、遠ざかるほど振動（波動）が弱くなる仕組みである。使用者には目的地の外観的イメージがある（例えば神社であれば、「緑色の瓦屋根」、「周囲には木が密集していそう」など）ため、その特徴を探そうと自然と周囲をよく見渡すようになるため、景色や景観も楽しめるようになる。

このデバイスが実装されれば、今まで見落としていたであろう情報を発見できるだけでなく、交通事故も減少させることができるだろう。